東洋の巨星墜つ

今朝六時四十七分 武藤元帥遂に薨去

男爵を被授正二位に敍せらる

遺骸は卅日新京發 軍艦で故國へ凱旋

＝關東軍司令部發表＝

關東軍司令官、特命全權大使、關東長官元帥陸軍大將正二位勳一等功二級男爵武藤信義は本二十八日午前六時四十七分新京官邸に於て薨去せらる

遺骸內地歸還日程

七月二十九日　午後四時告別式（於軍司令部中庭）
七月三十日午前八時二十分新京發午後七時大連着午後九時頃軍艦ニテ大連港發
八月二日朝下關港着午前九時下關驛發
三日午前八時三十分東京着
故武藤元帥ノ靈柩ニ隨從シテ內地ニ歸還スル者左ノ如シ
軍司令部、岡村少將、原田中佐、辰己少佐、西大條小佐、志村大尉、萬城目少佐岸本軍醫正
海軍、藤森大使館附武官
大使館、林出書記官、鶴見書記官
關東廳、日下內務局長、鹽原秘書官

關東軍司令官
特命全權大使
關東長官
元帥陸軍大將　武藤信義
勳功ニ依リ男爵ヲ授ケラレ、特旨ヲ以テ正二位ニ敍セラレ旭日桐花大綬章ヲ授ケラル
（七月二十七日附）
（號外再錄）

聖恩にむせびつゝ 武藤元帥溘然と逝く

＝官邸臨終の劇的場面＝

東亞民族の興起と極東和平の重大使命を〔双肩〕に荷へる巨星武藤信義大將は在滿百三十萬の同胞始め滿洲國三千萬民衆の無限の哀悼をよそに遂に光明を消し、時恰も北滿の野に秋風吹き初める七月二十八日午前六時四十七分！その臨終は、大將關東軍司令官、特命全權大使、關東廳長官として位人臣を極むる人の最後と言はんよりも寧ろ一介の武人武藤信義氏としての人間味豐かな最後であつた、廿六日午前急に黄疸俄かに革まり一度危篤の報傳はるや、日滿官民齊しく驚愕し小磯、岡村正副參謀長以下幕僚枕頭に詰めかけた、幕僚は伊藤醫部長及大連から飛行機で馳つけた森中博士を激勵し「不世出の英雄を死なすな」と必死病魔克服に努めた、然し主治醫の努力現はれず容態は刻々惡化し三十九度の高熱は午後六時頃三十七度に下降せるも脈搏は依然百三十以上を算し蒼白な元帥の額に汗がにじみ始めた、激しい疼痛と戰つて居るのだ。悲壯な元帥の努力に幕僚は〔一同〕痛ましさに思はず面をそむけたその頃荒木陸相からの急電は「三木、竹內兩軍醫正本朝飛行機で東京を出發した」と報じ來た、その夜九時卅分あはたゞしく市川新京郵便局長は一通の電報を捧持、官邸を訪れ、兩陛下よりの御見舞電の旨を申述べる、小磯參謀長恭しくこれを押戴き封を開いて御懇篤なる御趣旨の趣きを大將に傳達した、此の時大將は重き枕を外し、遙か東方を拜し、聖恩の高大に感淚ハラハラと兩頰を傳はせる室內寂として聲なく暫くして大將は「以前大病の際御見舞を賜つたがそれでよくなつたよ」と底聲ではあるがしつかりした口調で枕頭の參謀長を顧みた「今度も大丈夫キツトよくなりますよ」と誠心こもる〔慰め〕にうなづいたが靜かにそれも束の間大將はウトウト眠りに就くのであつた官邸を警戒する歩哨の靴音微かに響き街燈に映ゆる銃劍は露を含んで物凄い光を放つ午前零時皇太后陛下よりの御見舞電が達せられた、午前四時大將病室のに當てられた階上居室の窓を通して東天が仄のほのと白んで來た、その頃大將は又しても劇しい疼痛を訴へ始め主治醫が脈を取れば百四十百三十を示し、病勢頓みに惡化詰めかくる一同の面上にサツト蒼白の色が見え伊藤軍醫正は「絶望であります」と一言、面を伏せた、悲痛と絶望が交錯して一種明狀すべからざる重苦しい空氣の中に數時間は流れたが、その間大將の頭は醫師に見放された病人とは思へぬ程さへざへしてゐる事がその言葉と眼光とで知ることが出來た〔最後〕まで大將の更生を祈つて止まなかつた小磯、岡村正副參謀長以下幕僚は既に天命大將に幸せず、臨終迫る事を知り、參謀長は聲をうるませながら「閣下東京に御傳言は御座いませんか」と問ふた大將は只一語「何も用はない」ハツキリ答へたが、之を最後の言葉と思へば一同の瞳曇り、側の萬城目副官、志波少佐は男泣きに泣いた、無理もない大將が手鹽にかけた門下生だもの、大將は幕僚側近者に護られ奇蹟的に危篤狀態をつゞけること約一晝夜の長きに及んだが二十八日夜明け遂に全く希望曉星全く地に墜つ時に二十八日六時四十七分大往生を告げた、享年六十六歳、大將なき後の滿洲！〔一握〕の土、一握の高粱にも人間武藤の血が流れてゐることを忘れてはならない

武藤元帥閱歷

逝ける武藤信義元帥は舊佐賀藩士武藤喜八の弟、明治元年七月十五日を以て生れ同卅六年分家す、同廿六年步兵小尉に任じ大正十五年陸軍大將に陞進す其間參謀本部出仕同部員、陸軍大學校敎官、近衞師團參謀、露國駐在武官、近衞步兵第四聯隊長、步兵第二十三旅團長、參謀本部附同第一部長、參謀本部總務部長、第三師團長、參謀本部次長、軍事參議官、東京警備司令官、敎育總監兼軍事參議官等に歷補し滿洲事變後、本庄中將の後をうけて昭和七年八月三日再び關東軍司令官に補せられ同二十六日着任、次で駐滿全權府組織と共に初代駐滿大使仰付けられ、九月十五日世界史上特筆大書すべき日本の滿洲國承認、日滿議定書承認の重要責務を果し越えて昭和八年五月三日勳功を思召され元帥府に列せられ今日に及んだものである元帥は佐賀有爲會評議員として鄕土子弟の訓育に務められ趣味は圍碁、園藝、宗敎は眞宗である、家庭には妻能婦（明十五）（靜岡縣士族戸倉能則長女）二女みさを（大元）東京府立第三高女卒、長女止子（明四三）同校卒は神奈川縣陸軍步兵大尉多田督知に嫁す

陸軍の東郷元帥 沈思默行、果斷の人

＝逝ける武藤元帥の面影＝

わが武藤大將には逸話はさんざん少い、それは大將が武人らしく至つて寡言、また實行の人だからだ、松岡全權が世界の檜舞台に立つて「日本はいま現代の最も優秀なる人物をあけて滿洲に送り新興滿洲國の建設に努力してゐるんだ」といつたが、わが大將はいつの間にか陸軍切つてのナンバーワンとして押しも押されもせぬ〔地位〕を築きあげて終つた、世間では荒木派の大御所として評する者もあるが、大將はそんなことにかゝはる人ではない、世に口ゼロ、手ゼロで成功した人があつたとすれば東郷大將とわが武藤大將くらいで溫順そのものゝやうなその容貌、寡言にして而かも萬人に親み深くどこまでも陸軍の東郷大將といつた面影は生前の故大將によつて忍ばれるのである、田中內閣時代東方會議に出席したが、議論沸騰誰れも彼れもが滔々の意見を吐いたその中で武藤さん一人は相も變らずたゞ〔默々〕終始沈默をつゞけてゐたが、各代表連の愚問に堪へ兼ねた大將がやおら立つて關東軍司令官時代に蘊蓄した堂々の意見を披瀝すると、それこそ鶴の一聲萬場忽ちそれに一決して終つたといふ、その性格を物語る好一例である

現陸軍の諸星 悉く手鹽にかけた門下生

惜まる、武藤元帥

〔東京廿七日發國通〕武藤元帥は二十七日午前七時全く危篤に陷り終に〔逝去〕された、享年六十六歳昨年八月東京驛を出發滿洲國に赴いてから一ヶ年に滿たないので元帥の突如の不幸は東洋の一明星の墜ちた感がある元帥は白川大將亡き後は現役大將級の最古參者として斷然光つてゐた、乾兒を集めるといふわけではないが招かずして集まるといふ風で現任陸軍首腦部は荒木陸相を始め殆ど總て元帥の部下で元帥が手鹽にかけたものである物言はぬ巨人これが陸軍部內の通名である自宅にあつても默々として物言はぬが理解ある父であつた、家族は能婦子夫人との間に長女止子さん次女みさをさんがある、在滿日本の政治機關の統一が實現され將軍がその首班となつてから既に帝國防衞の鎭臺として重みを見せて非常時東亞の行手を双肩に擔ひ嵐の前に颯爽として起つて居た〔將軍〕を失つたのは寂しい限りであり日滿兩國の爲め一大損失である

遺骸は茶毘に付せず 軍艦で母國へ

黎明滿洲の空に忽然と消えた故武藤元帥の遺骸は茶毘に付せず廿九日新京にて告別式を行つた上故國に向け悲しき凱旋を遂げる事となつたが、只聞するに遺骸は告別式後特別靈柩車に安置、岡村參謀副長萬城目副官、鶴見、鹽原兩秘書官等に護られ、獨立守備隊員同乘嚴戒裡に三十日午前八時卅分新京驛發臨時列車及飛行機〇〇の先驅警衞を受けて大連に向ひ、橫須賀より廻航待機中の帝國軍艦〇〇に移乘同夜大連出港の筈である

死を悼む人々

武藤軍司令官の喪に遭ひて

小磯參謀長談

武藤元帥が識見高邁德望秀で居られたことは今更繰り返す必要はあるまい、顧れば昨年八月三位一體の重任を負ふて滿洲に御着任以來私は關東軍幕僚長として閣下を補佐すべき地位に置かれたが、補佐する處か閣下の御指導を仰いだ事の余りに多かつたことを追憶して衷心慚愧に堪へない閣下は日常手狹な官邸に於て極めて簡素な生活を續けられたが其朗らかな氣質と規則正しき御起居に依り平素頗る御健康であつた、然るに過般奉天、旅順、海城を巡視されて御歸京後廿二日以來輕微なる胃腸の御障害あり一時は黄疸の樣にも拜されたが廿五日午後より病狀頓みに進み醫官の凡ゆる療法も部下の心からなる祈願も其効なく遂に薨去されたのは邦家の爲一大損失である許りでなく滿洲國の爲にも大にしては東洋平和の爲にも大きな損害である私は閣下の病床に侍して親しく御看護申上げたが最後迄意識極めて明瞭で色々と公事に就き御氣付の事柄を示され只一言も私事に及ばなかつた、又優渥なる勅語を拜受して只管恐懼感激された御姿に接しここと拜察し感淚に咽ばざるを得なかつた將星俄かに地に墜ち私共は一時呆然とはしたものゝ徒らに悲痛はしない蓋し閣下は常に骨を滿洲の土に埋める御決意であられたから閣下に於かれては寧ろ御本懷であつたとも拜察する、關東軍將兵一同は閣下の身を以て示されたこの偉い人柱に依つて志氣いやが上にも奮ひ協力一心閣下の遺訓を奉じて關東軍の使命に向ひ益々精進し毫末の微動だもする筈がないからである此點は閣下御在世間絶大の後援を寄せられた同胞諸賢に於ても篤と諒承せらるることと信ずる又親しく閣下の高風に浴した滿洲國人諸賢に於ても安神して頂きたい色々と申上げたいこともあるが感胸に迫り意を盡すことが出來ない目下の環境を御推察して頂きたい

執政溥儀氏 暗然として語る

武藤元帥薨去の公報をうけられた溥執政はしばし暗然として言葉もなく慈父と仰いだ故元帥の在りし日の威容をしのび、追慕の念に堪へず落膽の模樣には側近者も思はず淚を催したほどで執政は

常に師と仰いだ武藤元帥の訃に接し全く慈父を失つた樣な氣持である、元帥は人格高潔、公平無私、滿洲國及び滿洲三千萬民衆の最大なる理解者であり援助者である、元帥の急逝は日滿兩國にとつて何ものにも代へ難き一大損失である

と言葉少く語り元帥の訃に政務を廢され哀悼の意を表された

薨去を悼む

小林駐滿海軍部司令官

御病氣中の武藤元帥閣下薨去の報に接し誠に誠に痛惜措く能はざるところである昨年八月來滿されてから關東軍司令官、全權大使關東長官として絶大の功績をあげられたことは今更吹々する必要もない吾人は感謝の念を抱いて尙今後益々滿洲の大黑柱として滿腔の信賴を抱いてゐるのであるが返す返すも痛惜哀悼に堪へない日滿兩國は今後國際的に重大な時期を迎へねばならぬと思はれるがこの秋に當り偉大なる將軍を失つたことは誠に我國により一大損失のみならず滿洲三千萬民衆の哀悼措く能はざるところと深く信ずるのである

武士の好典型 滿洲國民の大恩人

金壁東市長語る

新京特別市長金壁東氏を訪へば語る

武藤閣下には滿洲建國後來られて非常に御厄介をかけた殊に日本の滿洲國承認に當つて一方ならぬ御盡力に預つたことは吾々として忘れ得ざるものであつて滿洲國民を代表してこゝに感謝措く能はぬ次第であるなるべく〔長年〕に亘つて日滿兩國のためにお盡しを願つてゐたのに今はからずも黄泉の客となられたことは誠に惜しい氣がして堪らない滿洲國としてなほ今後ともシツカリした道を健實に歩むべく閣下の御指導に待つところ多かつたのであるがこうした高潔な大人格者が大使として來られたことは吾々滿洲國に取つては誠に得るところ多く非常な御恩を受けたものである滿洲國一般としても誠に惜しい限りである今までの事績を見ても恐らく日本においてもあれだけの〔立派〕な方は尠からうと思ふ自分は心から崇拜してゐた一人であるがお目にかゝつた感じは實に親しく吾々若い者をしてひとりでに崇拜せしむるものがあつた、自分は福島大將には特にお世話になつたが大將は福島大將と輪廓が大變によく似てゐるたと思ふ、尤も福島閣下はやかましい顔付であり、武藤閣下はおとなしい顔付ではあるが何れもおかす事の出來ないしつかりしたところ相通ずるものがあり全く武士の典型である

鄭總理暗然として語る

鄭國務總理は靜養の爲大連に滯在中のところ武藤司令官危篤の報に接し二十七日午後四時半大連發列車で急遽歸京したが大將の逝去を聞き愕然として語る

大將は日頃から非常な健康の方で事の意外に私の頭が混亂してゐます。大將は日本にとり大切な方であることは勿論でありますが、滿洲國にとつても大切な方であり、日滿兩國にとり重大損失であります只今頭が混亂してゐる これ以上何等申上げ得ない狀態であります

芙蓉を仰ぐ尊さ 誠に痛惜のきわみ

時局後援會長 荒木章氏談

今朝大連から急遽歸京した荒木地方事務所長は時局後援會を代表して弔問に出かけるところを訪ねると流石に肅然と襟を正して

武藤大將閣下が突如薨去遊ばされたことは誠に痛惜に堪へません

と前提して大要左の如く語る

閣下は吾々に取つては實に芙蓉を仰ぐが如く神々しくひとりでに頭の下がるのを覺えた、佐賀藩の古典で養はれた葉隱れ武士の面影も偲ばれて誠にゆかしいものがあつた、軍司令官、全權大使、關東長官の所謂三位一體の重任をになはれるには最適任だつたとつくづく思つたことである、いま大業半ばにして逝かれたことは誠に痛惜の極みで萬感胸に迫つていふところを知らないが閣下の御力によつて滿洲國建國の大業も着々と進み、今日あるはせめて故大將に取つても大きな慰めであらうと思ふ

謝總長

武藤司令官危篤の報に接し大連より鄭國務總理と共に急遽歸京した謝介石氏は大將の訃報について悵然として語る

實に惜しい人を失ひました日滿兩國にとり一大損失です、武藤司令官とは昨年着任されてからの知合です、資性溫厚稀に見る人格者でした、日滿兩國間が圓滿に協調を保つたのも司令官が居られた爲と言つてもよい位で、總ての物事に非常に愼重でした私共は非常に司令官をお慕ひしてゐたものでした

武藤司令官は一月に三回位執政を訪問して公務を離れ、個人として友人として執政と世間話をされることを例とせられてゐたがその間社會全般の事に就いてもお若い執政を導いて居られたが執政としても人格高潔な司令官を愛して非常に尊敬されてゐたと伺つてゐます 私も執政が非常に暑いので臺灣製の寢具の上に敷くパナマのござを避暑に來る際お送りしたら非常に喜ばれました、斯る司令官を失つたことは日滿兩國にとり返す返すも惜しみ[illegible]餘りあります

後任全權大使は菱刈隆大將に決定

けふ葉山で親任式行はせらる

（東京廿八日國通）武藤軍司令官の後任は菱刈隆大將と決定した（號外再錄）

親補式擧行さる

（葉山二十八日發國通）天皇陛下には午前九時葉山御用邸で齋藤首相侍立の下に關東軍司令官の親補式を行はせられ菱刈大將に親補新任の勅語を賜はつた、同時に內閣より左の辭令發表さる

陸軍大將正三位勳一等功三級　軍事參議官　菱刈隆
補關東軍司令官兼任特命全權大使
關東長官
滿洲國駐箚仰付けらる

欣喜雀躍將軍

今度は鷲か鷹で赴任するか　菱刈大將朗に語る

（東京廿八日發國通）武藤大將後任に決定した菱刈大將を青山高樹町の邸宅に訪へば將軍は各社の寫眞班にせがまれて袴姿もきちんとレンズの前に立ち「滿洲國人が見たらこんな奴が來るかと驚くぞ」とうそぶく、玄關脇の應接間にかは祝賀の客が詰めかけごつたかへして居る大將は包み切れぬ嬉しさを抑へ「抱負などまだ語る時期ではないよ臺灣へ赴任の途次、欣喜雀躍赴任するとの祝電に返電したので欣喜雀躍將軍の綽名をとつたが今度は雀では勤まらぬ鷲か鷹で行くか」といふも朗である

長男隆敦君は語る

父の趣味は碁です、父は淡々として子供の樣な無邪氣さを持つて居ます、臺灣軍司令官として赴任の際臺北の知人三好さんに宛で欣喜雀躍として赴任すと電報した爲め以來欣喜雀躍將軍と云はれたりして居ますが、斯う云つたことも父の面目が躍つて居る樣に感じます

と家族は鈴子夫人との間に四男があり、ほかに犬好きな愛犬が三

菱刈大將は適任だ

謝外交部總長車中談

（鐵嶺二十八日發國通）武藤大將後任として菱刈大將が決定せるの報告を齎らし大連より急遽歸京の途にある謝外交部總長を車中に訪へば、左の如く語る

何等の報告に接して居ないから後任者の適不適に就いては、滿洲國としての承認不承認についてことに於ては話し得ない、唯一個人として、もし君の言ふ如く菱刈大將が後任と決定したなら同大將はかつて關東軍司令官として滿洲に居た關係上滿洲國に對しても人一倍の關心をもつてゐられるし又理解もある、この點でも適任と思ふ、滿洲國としては故武藤大將の如く誠心誠意滿洲國の健全なる發達に援助を與へられるなら自分は勿論三千萬民衆は双手をあげて歡迎するであらう

新軍司令官閱歷

鹿兒島縣士族菱刈八郎次の三男明治四年十一月を以て生れ同十八年家督を嗣ぎ同廿一年前名幸吉を改む、同廿七年陸軍士官學校、同卅五年陸軍大學校を各卒業し、同廿七年陸軍步兵少尉に任じ、昭和四年八月陸軍大將に累進す、其間步兵第三、同第二十六各聯隊中隊長、陸軍戶山學校教官、臺灣總督府陸軍幕僚參謀、教育總監部課員、東京衛戍總督府參謀兼軍務局課員、陸軍步兵學校研究部員、步兵第四聯隊長、第二師團參謀長、第二十三旅團長、陸軍戶山學校長、由良要塞司令官、第八、第四各師團長、臺灣軍司令官、關東軍司令官等に歷補し、昭和六年八月軍事參議官に親補せらる、家庭には妻鈴(明一四)東京府寺本種義長女、嗣子勝男(明四〇)三男隆敦(明四二)四男隆文(明四四)五男寅之助(大二)六男隆永(大一一)あり

米國海軍頻りに福建省に軍備擴張

代償に一千萬圓の社債に應募

我不割讓條約無視

（東京二十七日發國通）軍部への情報によれば、福建省は明治三十一年我國と不割讓條約を締結し、省內土地港灣孰れも貸與せず、且外資輸入による軍備擴張を行はずと、誓約したるにも拘らず、米國の對南支政策は最近頓に露骨となり米軍艦フルトン號は機關銃、飛行機附屬品等を厦門より陸揚げし、尙漳州龍巖間百二十粁の鐵道敷設計畫に一千萬圓の一般社債に應募して多大の援助を與へ、且福建海軍に潜水艦二隻、飛行機六台、高射砲十六基、彈藥五千發を本年中に送附の筈で以上の代償に米國は銅山灣に米海軍根據地及び貯炭場の權益を確保すべく計畫してゐるが、我海軍當局は成行を重大視してゐる

國防上から

當局重大決意を爲す

（東京二十八日發國通）米國の支那福建省進出は我國防上に至大な關係がある故に當局はその成行を注視して居るが我國には日淸戰爭以來福建省內各地が各國に讓渡若しくは貸與されんことを虞れ支那政府と次の如き公文を交換して居る

第一　福建省不割讓に關する公文

我方より淸國政府に於て福建省の各地を他國に讓渡若しくは貸與せざるべきことを聲明されん事を申入れたるに對し、淸國政府は按ずるに福建省及びその沿海一帶は齊しく中國の要地に屬するを以て何れの國たるを論ぜず斷じて讓與又は貸與せざるべしと聲明す（明治三十一年四月二十二日）

第二　福建省に關する交換公文

我方より支那政府は福建省沿岸地方に於て外國に造船所、軍用貯藏所、海軍根據地其他一切の軍事上の施設をなす事を許し又支那自ら外資を借入れ前記各施設を行はんとするが如き意志を有せらるゝや否やの照會に對し、斯る意志なきことを聲明する旨回答す（大正四年五月二十五日）

而して福建省今回の施設は明かに右交換公文に違反するものにして帝國政府は重大なる決定を爲し近く何らかの措置に出る模樣である

栗原總領事　天津へ榮轉す

（東京廿八日發國通）天津總領事桑島主計氏は谷アジア局長の後任として本省へ歸ることになつたので、天津總領事には現滿洲國大使館一等書記官栗原正氏を轉任せしめることとなり、廿八日の定例閣議に附議辭令を見ることとなつた

在外大公使　任地で薨去の例

在外大公使で現職のまゝ薨れたのは武藤大將で十人目で近くは吉田トルコ大使も任地で薨去したが松村在アルゼンチン辨理公使以下左の如くである

▲在ペルシア國臨時代理公使　成瀨俊介
明治四年十一月十日任地で
▲在佛兼ベルギー、スヰス、スペイン、ポルトガル特命全權公使　鮫島尙信
明治十三年十二月四日伯林で
▲在アルゼンチン國兼ペルー國辨理公使　杉村濬
明治二十九年五月二十一日任地で
▲在ポルトガル國兼スペイン國特命全權公使　稻垣滿次郎
明治四十一年十一月二十五日任地で
▲在中華民國特命全權公使　山座圓次郎
大正三年五月廿八日北京で
▲在ポルトガル特命全權公使　坂田重次郎
大正八年十一月二十六日任地で
▲在シャム國特命全權公使　政尾藤吉
大正十年八月十二日任地で
▲在イタリー國特命全權大使　落合謙太郎
大正十五年六月四日歸朝の途次香港、上海間で薨去
▲在トルコ國特命全權大使　吉田伊三郎
昭和八年五月三日任地で
▲在滿洲國特命全權大使　武藤信義
昭和八年七月二十八日任地で

故國を離る時

既に一死報國を決意

奥床しき故元帥の日常生活

武藤元帥は上原元帥と共に陸軍に於ける最年長者で、現陸軍の大御所であつたことは蔽ふべからざる事實であつた、將軍は日淸戰役にはやくも少尉で出征し武勇を大いに現した、その後陸軍大學に入學し卒業の時には恩賜の軍刀を授けられ、軍人としての光榮を一身に荷つた、日露戰役には近衞師團參謀として奮戰シベリア出兵の戰功で功二級金鵄勳章を拜受してゐる、昨年八月、關東軍司令官兼全滿大使、關東廳長官の三味一體の高官に親補されて以來、ホロンバイル討伐、熱河聖戰日滿議定書の調印に赫々たる功績を殘し五月三日元帥の稱號を賜つた、將軍故國を離るるとき、明治大帝より賜の軍刀を腰もとに「骨は滿洲に埋むるのだ」と家人に言ひおいて滿洲に向つたのであつたがその頃から既に、永遠に滿洲に止つて母國へ歸ることはあるまいと見られてゐた、能婦子夫人も「藤武は骨を滿洲に埋める決心であるのです、何か立派な仕事をやらないうちは日本へは歸つて來ないでせう」と語られたこともあり、夫人も今日の悲報を夙に覺悟されてゐたやうである

將軍は「もの言はぬ將軍」と云はれるだけに仕事以外の口は決してきかない、趣味は讀書だけで煙草ものまなければ盃も手にしない「結婚して三十年醉つて歸つたことはない」それは能婦子夫人を驚かせて居る事實だ、家庭では綿服主義、夫人も令嬢も絹物は御法度、その落合の邸宅も極めて質素のものであるそして「一誠百術を克制す」これが將軍の座右銘であつたことは高潔な將軍の人格と風手を彷彿せしめる

臨終の直前

滿洲國の方針を綴る

大將は臨終直前三十八度の高熱にいく才苦痛の色は見せてゐたが枕邊にペンを取りよせ氣強く萬城目副官が手渡すペンをしかと握り大滿洲國の大方針、並に經濟問題等々の感想記を最後の息を引取る迄書き續けた由である

在滿機關の三位一體は變化なし

（東京廿八日發國通）外務省では武藤大將逝去後の在滿機關の統制問題協議の結果武藤大將が亡くなつても在滿機關の三位一體は變化せずとの意見一致し駐滿大使は外務省側より候補者を出さず內田外相より荒木陸相に右の趣を傳達し陸軍側の人選に從ふことに態度を決定した

少年時代の

故武藤元帥　思ひ出のかずく（一）

貧しき家に孝子出づ　或日の信義少年

これといつた逸話の尠い武藤元帥にも少年時代にはかずくの思ひ出話がある、いづれも故大將の面影を偲ぶに充分なものばかりである、今それらを一つ二つ拾つて見やう

□　□

大將の生れた實家は佐賀縣杵島郡龍王村牛間田といふこく片田舍であつた、今は「ムトウ」といつてゐるが當時この土地では「タケフチ」といつてゐたそうだ、鹽田川の川浴びの龍王村でかなり大きな廻送問屋を營んでゐたがお父さんの喜右衛門氏が亡くなつてからは、眞德丸といふ千石積の持船が沈沒してしまつたりして、不運がつゞき、財産もだんく人手に渡つて今では兄弟二人の子供を抱へたお母さんのかつ子刀自が夜遲くまで賃仕事をしたりしてやつとほそく暮しを立ててゐた孝心の深い信義少年は小さい行燈の灯をたよりに眼を眞赤にさせてセッセと針を運ばせてゐる母君の姿を見てどんなにか胸を痛めたことであらう

□　□

その當時のことだ、ある日信義少年は釣竿一本をかつぐと唯だ一人せつせと附近の鹽田川に出かけたものだ、少年は持前のむつつりした顏を綴めもせず默々として釣り上げた小鮒を鈎からはづすとビクの中へ入れてゐた、ビクの中には早くも十尾あまりの魚が銀色の鱗をかゞやかしてゐたその折ふと三間ほど下手で同じやうに糸を垂れてゐた村上といふ仲間の少年が、つかくと側へ寄つて來ると

「おい、君はもう十四以上も釣つてゐるな、僕は一匹も釣つてゐない、場所をかはつてくれんか……」

彼はおつかぶせるやうな調子でかういひ出した、それを聞くと信義少年は素直に立ちあがつて川下の方へ歩いてゆくそうしてまた腰を下して釣を下すと續けさまに二、三匹を物にしたが、場所を換へて貰つた村上は一匹も釣れない村上は無暗に腹を立てゝ又も信義少年の側に近づくが早いか

「君の釣つた鮒を二、三匹おくれんか」

と、いひながらもうそのビクに手をかけてゐた

□　□

「この鮒はどうしてもやられん」

今まで押し默つてゐた少年はこの時始めて口を開いた、そうして

「これはお母樣にお藥の代りに上げるんだから……」

そういひながら自分の獲物をきつとすると友達の手を拂ひのけたが村上はどうしても肯きいれない、やがては口はいきなり拳をかためて信義少年の横腹をポカリ、つゞいて頰にも顏にも頭にも鐵拳の雨が降つて來た、しかし彼はその無法な仕打を防がうともせず、じつとはがみをして耐へてゐたそこへ通りかゝつたのが信義少年の家に出入する船頭の作爺である

□　□

作爺はその痛々しく赤くはれ上つた額や頰に見入りながら尋ねるとさすが強い信義少年は「爺や何でもないんだよ」と苦痛を耐へ無理に笑顏をつくつて見せた、そうして元氣な調子で

「この間からお母さんがあんまり夜遲くまでお裁縫をなさるんで、眼が惡くなつた、疲れ眼に鮒が藥だと聞いたんで……」

そう事もなげにいつて今更の如く少年の孝心厚きに作爺も泣かされたそうである

□　□

それから作爺は重ねて「どうしてあんな村上の小倅なんかに默つて打たれるのか」と聞くと少年の答へは實に振つてゐる

「撲るのはわけはないけれどご可愛そうだからさ、僕は撲られたつて泣きはせないけれどご村上は僕に一つでも撲られたらおいくく泣くだらうからさ……」

彼はニッコリ笑ひながらそういつたそうだ、これは大將が僅かに十歲の頃であつたと聞く、大將の少年時代が偲ばれてまことにゆかしい

新京における武藤軍司令官の思出

武藤軍司令官は昨年十二月現在の官邸に移られたがこの官邸は元來總領事の『官邸』であつて極めて手狹な且粗末なものであり、玆で六十五歲の老將軍が萬城目副官と常に第一線將兵の勞苦を偲びつゝ簡素な生活を續けて居られたことを思ふと同情に堪へない、軍司令官は毎日午前五時三十分起床して六時三十分に朝食を攝られるが其間側近の者に迷惑を懸けまいと云ふ細い心使ひから階上の郎下を散步して時間の經過を待たれるのである、朝食後は新聞に目を通し午前九時十分の定刻には司令部に出勤せられる、司令部では午前中幕僚其他の報告を聽取し晝食は食堂で日々交代で職員と會食せられるが部下には屢々謹嚴な將軍の口から洩れるユーモアに笑はされることがある、午後は各方面からの訪問客を引見せられ時計の針が午後四時を指すと定て軍司令部から官邸に向はれる、毎月一日、十一日、二十一日には執政府に『執政』を訪問せられ極めて打ち解けた會談が續けられ側近の者の話では執政信任の程が偲ばれると云ふことである、夕食は入浴後和服に寬ろぎ六時三十分に攝られるが其間馬場で愛馬孫孝、帶安を驅て運動せられるのが通常である夕食後は書齋で永い間の習慣である日誌を細かに記され、これが終ると書見せられるが、時として謠曲に興をやられ時として副官と撞球、將棋に時を移されることがある、毎日午後十時三十分には床に入られるのが普通の日課である、嗜好は取りたて云ふ程のものもなく書見は最も好まれたもので將棋、謠曲などは嗜好の一つと云へよう、食事は日本食を好まれ酒量は極めて少量である、遺族は東京下落合二〇七三に能婦子未亡人と次女みさを孃が居住して居られる、長女止子は藤井外務書記官に嫁し過般任地に向ふ途中新京官邸に樂しき二夜を送られ、二十五日ストクホルムへ安着の報に軍司令官も『非常』に喜ばれたが今はこれも却て悲しき思出で了つた

松木中將が臨時軍司令官代理

武藤大將の薨去に付以後任司令官着任迄松木直亮中將が職務を代理する

遺骸を大連まで送る　張軍政部總長

滿洲國では軍政部總長張景惠氏を代表として三十日武藤大將の遺骸を大連迄見送る筈である

人事往來

▲藤森大佐（關軍參謀）二十七日午後三時三十五分來京
▲總財政部總長二十七日午前五時五十分來京
▲張實業部總長二十七日午後七時五十分歸京
▲山西理事（滿鐵）同上
▲河本理事（滿鐵）同上
▲岸本少將　同上
▲宇佐美鐵路總局長同上
▲水町少將（陸軍豫備役）二十八日午前六時四十分來京
▲井上少將（教育總監部）同上
▲鄭國務總理　同上
▲謝外交部總長　同上
▲小川大連市長　同上

けふの銀相場

鈔票對金票	[illegible]
現大洋對金票	[illegible]
國幣對金票	[illegible]
[illegible]鈔票	[illegible]

幕末異聞

愛慾火箭

(百二十七)

作　瀧川駿
畫　村瀬洗舟
(上海上映)

不思議な手紙(三)

薄暗がりの玄關で、誰かが案内を乞ふ聲がした。

「何方でございます」

出て來たのは、お抱への陸尺だつた。

「あの一寸尋ねますが、衛門さまがお居でになりましたら、此の手紙をお渡し願ひたいのでございますが……」

手紙を懷中から取り出した所謂人足體の男。それは寸駒の甚の變つた姿だつた。

小者だと踏ると、横柄に出るのが小人の常。

「何だつて衛門さまだつて、知らねえよ。今日は節分だ、衛門だの鬼門だのつて言ふのは、豆にはじき飛ばされる日だい」

「あの當家に厄介になつて居らつしやるお方でございますが……」

「當家に厄介になつてゐるか、ゐねえか知らねえが、知らねえから知られえと言ふんだい!」

「ごく近くにお越しになつた、お方でございます」

甚は大抵の事なら、怒らない利口な男だ。それに酒の廻つた陸尺(駕籠舁)との問答だから面白い。

「最近厄介になつた、箆棒めお、いら今年で十三年この家の飯を食つてゐるんだ。駕籠舁だと思つて馬鹿にしやがると、息杖で頭をくらわすぞ」

相手が酔つぱらつてゐるので甚も聊か困つたらしい。

「チェッ」

甚は舌打をして引き返して行つた。

この頃、大川端で、寒い川風に吹かれながら甚の歸りを待つてゐた源の、大川端から匐ひ上つた連中。

「馬鹿に手間どるな」

斯う言つたのは、胡蝶の賊の仲間ではよの利く梟の權三だつた。

それに傴僂男の源も居た。それらを見てすぐ判る通り、これらは胡蝶一味の賊だつた。

とぼ〳〵戻つて來る甚の姿を見付けて、源が言つた。

「寸駒の何うしたい?」

川風の吹きつける大川端なので話が甚まで屆かないらしい。

「お、寸駒の何うした?」

こんどは權三が訊いた。

「さつぱり判らねえ——」

「へ、——お前にも似合はねえ何うしたんだ?」

「それがよ、門番の陸尺の野郎が節分の振舞酒に、喰ひ醉つて話がとんちんかんで見當が附かねえのよ」

「今朝おいらが例の手紙を投げ込んで置いたので、野郎風を喰つたかな?」

これは、一座の中で年若の木鼠の初が言つた。その言葉を引取つて源が例の兎口を妙に動かして言つた。

「そ、そんな事はねえ、奴はジ、ヤリを喰つて寢てゐるんだよ」

「成る程なア……」

權三が感心したやうに言ふ。

「寸駒の、もう一ぺん行つて見ねえ。又もとの醉ひどれが出て來さうだつたら俺が加勢して、出て來ねえやうにしてやらア」

源は自慢の礫をつかふ氣らしい。

「そいつは上分別だ。寸駒の、もう一度行つて來んねえ」

權三に頼まれて、甚は起ち上つた。

強い風に、甚も源もひよろけさうに藥研堀の道齋の家の方へ出かけて行つた。

眞暗に日の暮れた中で、風が強く吹きつけてゐた。

「御免下さい」

寸駒の甚が門の戸を叩いて、案内を乞ふた。源は傍に聳へてゐた柿の木へよじ登つて、礫を握つて待つてゐた。

「御免下さい、大和屋から參りましたものでございますが、お藥を頂きに上りました」

聲は風にとられてしまふらしい、家の中からは誰も出て來なかつた。

七月廿九日　舊六月七日
土曜　丙申　赤口　除　氏宿

●一白の人　流るゝ汗も千金の寶玉となる努力の日　巳と庚と辛が吉
●二黒の人　家道盛にて油斷すな榮華は一朝の夢と化す　甲と庚と壬が吉
●三碧の人　走るに過ぎて躓く事あり大怪我の基となる　坤と申と癸が吉
●四緑の人　鬱積したる感情の爆發せんとする日和合吉　未と申と癸が吉
●五黄の人　鋒先鈍りて敗を取るに至る元氣を奮ひ安全　庚と亥と癸が吉
●六白の人　虚勢を張らず實力本位にて進めば失敗無し　丁と庚と寅が吉
●七赤の人　不運を喞たず現狀に滿足して焦らぬがよし　甲と丁と亥が吉
●八白の人　有利と確認せし事も失費多く思案に餘る日　乙と辛と壬が吉
●九紫の人　運氣旺盛にして希望達成の日但し盜難注意　巳と亥と癸が吉

新京日日新聞

定價 一部 金三錢 一箇月 金八十錢 郵税 一箇月 金十五錢
新京永樂町四丁目一番地 發行所 新京日日新聞社 電話二三〇〇・二五二三番
發行人 十河集男 編輯人 松本 印刷人 谷啓二郎

パラセル島問題で 我が當局抗議せん

十七八年前既に邦人が開拓 佛領有宣言に反對

【東京二十八日發國通】佛蘭西政府は南支那海のパラセル群島の領有を宣言したが之に對し我外務省當局は既に「之等」の島には十數年前より日本人が居住し事業を起したものださの見解を以て近く詳細調査の上佛國政府に對し之が領土權の主張或は何らかの對應手段に出るこさとなり目下海軍當局さも打合せ中だが日本人は十七八年以前既に珊瑚島に渡來、燐鑛を發見して營業にいそしんで居た、而して一九一八年十月七日同島の代表者は當時の外相内田康哉氏に對して「島々には日本名を附しながら日本領土の確認を與へてくれ」さ請願し又一九二〇年には齋藤桑吉氏外在住[illegible]を以て調査した結果更に十二の「小島」を發見した旨政府に報する所あつた、更に昭和四年田中内閣の時にも同樣の問題が起きたので其の都度外務省は一應海軍さも打合せを行つたが當時英國は馬來半島、米國は印度支那に勢力を占めて居るその眞中の諸島を日本が先占によつて領有するは徒らに國際問題を惹起し來卑地に波瀾を起すものださの見解をさつたものである、然し乍ら珊瑚島を最初に發見した邦人は燐鑛開發の爲海岸迄運搬レールを敷き船容棧橋等を建設する等相當の費用を注ぎ込んで居るに鑑み佛國政府の領有宣言に「反對」する根據は十二分にある譯で目下考究中である

九島嶼の主は

我が燐鑛採掘業の平田末次氏 海軍省に實情を申達

【東京二十八日發國通】フランス政府の南支那海、九島嶼の領土權取得發表はフランスが支那海で制空、制海權を獲得する可能性あるものさして注目されてゐるが、右の島には十五六年以前既に日本人が居住し居り燐鑛採掘を營んでゐた事實が判明した、即ち原籍秋田縣横手町、現住所臺灣高雄市居住の平田末次氏は田臺灣總督時代同方面の漁業調査中右の島が燐鑛採取に有望なるを發見、之が採取を營み平田群島さ名附けてゐたものである、平田氏は先般上京し海軍當局に事實を傳へ同島に於ける燐鑛採取の寫眞及び活動寫眞で證明出來るさ述べた

三陛下より

畏くも御弔電を拜す

武藤大將の薨去を聞し召された 天皇、皇后兩陛下並に皇太后陛下には畏くも二十八日早朝左記御弔電を賜つた

天皇陛下ニハ武藤關東軍司令官ノ薨去ヲ聞シ召サレ深ク御追悼アラセラル
右聖旨ヲ奉シ傳達ス
鈴木侍從長
本庄侍從武官長

皇后陛下ニハ武藤關東軍司令官ノ薨去ヲ聞シ召サレ深ク御哀悼アラセラル
右御沙汰ヲ奉シ傳達ス
廣幡皇后宮太夫

皇太后陛下ニハ武藤關東軍司令官ノ薨去ヲ聞シ召サレ深ク御悼惜遊ハサル
右御沙汰ヲ奉シ傳達ス
入江皇太后宮太夫

邦人定住の事實がある

外務省回答を保留して調査

【東京二十八日發國通】長岡駐佛大使よりの報告に依れば佛國政府は二十四日長岡大使に南支九島嶼先取々得の通牒を發したが、外務省では嘗て同島に邦人居住の事實もあり諸般の事情を調査するまで回答を差控へてゐる

バタヴィア國民會議に

輸入制限法案を提出す

【東京二十七日發國通】在バタヴィア小谷總領事よりの報告に依ればバタヴィア政府は國民會議に非常時輸入制限法案を提出した、右に依れば輸入禁止を實行し得、有效期間を十ケ月さするもので最近南アフリカ市場での日本品の競爭を仇敵視して對日共同動作を企圖する英蘭協定の具體化さ觀られ外務省でも成行を注視して居る

谷亞細亞局長を

駐滿大使館參事官任命に決定 後任は桑島總領事

【東京廿八日發國通】内田外相は谷亞細亞局長を在滿洲國大使館參事官に任命し其の後任に桑島天津總領事を、桑島總領事の後任に駐滿大使館一等書記官栗原正氏を任命するに決定した、栗原氏の後任は駐伊大使館一等書記官ジュネーヴに於ける松岡代表の秘書吉澤清次郎氏が任命され、二十六日渡滿した

滿洲國政府の公式弔問次第決定

滿洲國政府は一昨日武藤元帥危篤の報に接するや旅行中の各部總長に至急歸京の招電を發したので、大連出張の鄭國務總理、謝外交部總長は昨日午前八時新京に歸着直ちに午前十時より國務院に臨時國務院會議を開催し、丁交通部總長を除き各總長全部列席し協議の結果

(一) 本日弔問の爲大使館官邸を執政が訪問される件、並びに政府代表さして鄭國務總理、謝外交部總長、宇佐美顧問始め政府要人が參邸する件

(二) 外交部は直ちに丁駐日公使に訓電を發し、日本外務省、陸軍省及び拓務省へ弔問の爲赴く件

(三) 御通夜には滿洲國政府より各部總長、參議院長、顧問、次長、局長、金市長、修警察總監、中銀正副總裁其の他參列する件

(四) 告別式には執政から御供物を、國務總理以下各部總長院長參議執政府、省管警備司令官、顧問等は花環及び祭幛、各部局職員は花環を夫々贈呈し式場には執政が弔詞を讀まれ、國務總理が政府を代表して弔詞を朗讀する件

(五) 滿洲國代表さして大連迄謝外交部總長許大禮官、鄭禹秘書官が見送る件

を可決し十一時卅分散會した

菱刈大將に對するアグレマンを發す

廿八日中に受諾の旨回答されん

故武藤元帥の後任に決定御裁可を經た菱刈大將のアグレマンは二十八日午前日本外務省より駐滿大使館を通じ滿洲國外交部に對し承認を求めて來たが之に對し滿洲國當局は二十八日中受諾の回答を發する模樣である

菱刈大將の來任で

日滿關係益々親密 鄭國務總理語る

新任の關東軍司令官菱刈大將につき鄭國務總理は語る

この度武藤軍司令官に次で後任さして菱刈大將がお出になる事につきましては「自分」は同將軍さは面識はないけれども承れば將軍は日本陸軍の最古參者であり、又本庄司令官の前任者であるさいふ事を知り、經驗、學識、人格何れも完備されたる人さ知り、同將軍の御來任を歡迎する次第であります、前關東軍司令官閣下の滿洲國に對する方針は日本政府の動かざる大方針に基いてゐた事を信じ、從て軍司令官の更迭により對滿方針に何等變更なき事を信じます、滿日の國交は愈よ「親密」になるこさを固く信ずる次第であります

滿洲國にアグレマン

同意を待ち發表

【東京二十八日發國通】武藤元帥逝去に伴ひ荒木陸相は現下時局さその職責の三位一體制に鑑み軍部の意向を綜合し軍事參議官最古參者菱刈大將を推すに決定し齋藤總理、内田外相の諒解を求めた結果内田外相より滿洲國にアグレマンを求め同意を待つて發表するこさとなつた

武藤元帥の盡きせぬ功績の數々

非常時陸軍の大黑柱、ものいはぬ將軍、武藤元帥は六十六歳を一期に、客舍、新京の官邸に、日清、日露の兩戰役はもさよりシベリヤ戰役にも出征しそして今また滿洲國の建國にさ、武勳輝く武人の長い生涯をとぢられた

をいぬれど國にむくゆるまごころは、若き櫻の花にゆづらじ

辭世の決意さ奉公の誠に燃ゆる一首を殘し「わしの骨は滿洲に埋むるのだ」さ滿洲に赴任されて以來十有一ケ月、その間一日さして席の暖まるひまもなく軍司令官さしてまた全權大使さして滿洲國の國境保全さ匪賊の大討伐に、或は日滿兩國々交の親睦、確立に殘した幾多の功績さ貢獻、いま武藤元帥滿洲に在りし日のその功績の跡を辿つてみやう

滿洲國承認

昨年八月八日關東軍々司令官に親補せられ、特命全權大使關東長官を兼任するこさとなり優渥の勅語を賜つた將軍は小磯參謀長、岡村參謀副長を幕僚に月末近く故國を發し、同二十六日安東に到着するや入滿挨拶の聲明を發せられ、いよいよ滿洲に於ける輕重要な椅子に寡默にして謹嚴な腰をおろされた、武藤全權の着任さ共に滿洲國承認の機は愈々熟し、九月十四日全權部及び關東軍司令部の隨員を從へ新京に到着、翌十五日鄭國務總理さの間に日滿議定書を調印し滿洲國承認さ云ふ日本の外交史上最も意義深い事業を達成された日滿國交の親睦を確立した、この前後から武藤將軍さ滿洲國々務總理鄭孝胥氏さの間には互に國政を談ずべき無二の相手さしての誠心の握手が結ばれた、十一月全權府及び軍司令部さ共に新京に移りホロンバイル討伐には皇軍の大興安嶺突破に日本陸軍の武勇を世界に輝かして昭和七年を送つた、この年の新春を迎へるに際し、ものいはぬ將軍は「日滿兩國の死活は滿洲國の成敗に從つて決し、東洋復興の如何も亦これにかかつてゐる」さ滿洲國政に邁進するの壯意を年頭の所感さして述べられた

熱河聖戰

ホロンバイル討伐についで熱河聖戰の導火線さなつた山海關事變に司令官さしての將軍の生活は新春早々多忙であつた

二月中旬いよいよ皇軍の熱河聖戰開始さるるや岡村參謀副長以下幕僚を隨へ、戰鬪司令部を錦州に進め西、坂本、服部、茂木諸軍を指揮督戰し三月一日の正式攻擊開始以來僅か旬日にして敵を國境外に驅逐する戰史上未曾有の快捷を博し、滿洲國々境確立の歷史的事業をここに完成した、この意義ある戰勝の記念日たる三月十日、錦州の戰鬪司令部に勝報さするめの戰勝の祝盃をあげ東の方を仰いで陛下の萬歲を三唱された、老將軍の悌は流石喜悅に滿ちてゐた、そして翌朝は早くも戰鬪司令部をまさめて新京に凱旋したのであつた

熱河聖戰の直後日本の聯盟脱退は不可避的のものさなつてゐた、この情勢を看取した將軍は十五日萬難を排して滿洲國を護るの意を披瀝した「滿洲國三千萬民衆に告ぐ」の重要聲明を發して、日本聯盟脱退に依る滿洲國民衆の不安を一掃した、四月十五日畏くも關東軍將兵に熱河肅清の勞苦を嘉され優渥なる勅語を賜はれるに將軍は恐懼感激し奉答文を奉つた「滿洲國に於る電氣事業に關する日滿協定」に帝國全權さして調印されたのもこの日の出來事であつたそして將軍の武勳さ功績は元帥府に列せらるるの榮譽を荷ひ非常時陸軍の大黑柱さしてもの信望をあつめた

長城戰

この間長城線方面に於ける支那軍の反擊は執拗にわれわれ遂に五月十五日關東軍司令官の名を以て「支那軍撤退せずば反擊作戰を繼續し滿境保全の目的を達成するであらう」さの重要聲明を發し支那軍の反省なきに、遂に長城線外進擊の軍事行動を開始し、支那軍をして遂に城下の盟を誓はしめ、滿洲國の基礎を永遠に固めた

×

大討伐もいよいよ一段落を告げるや將軍は盛暑にもめげず「若き櫻の花にもゆづらじ」の壯丁をも凌ぐ至誠さ意氣に管下部隊の巡視に精勵されてゐたが、終にそれが將軍最後の御奉公さなつた

溥執政自ら告別式に御參列

故武藤大將の告別式は二十九日午後四時より軍司令部中庭に於て嚴肅に奉行されるが葬儀委員長には小磯參謀長、副委員長岡村參謀副長、栗原一等書記官、西山財務局長及滿洲國軍政部次長王靜修氏の四氏に決定、なほ當日は大將の發病以來常に深く心痛されてゐた執政は自ら式場に臨み弔文を朗讀される筈である告別式次第は左の如くであるが民間諸團體は代表者に引率され約三十分前迄に到着する樣に又一般參會者は四時半迄に一般席に入り五時以後逐次燒香せられたいさ

未亡人に

爵記傳達さる

【東京二十八日發國通】武藤大將逝去に先だち二十七日畏き邊より授爵の恩命があつたので陸軍省鈴木中佐は遺族に代り二十八日午前十時宮内省に出頭假爵記を拜受旭日桐花大綬章さ共に陸軍省より武藤大將未亡人に傳達した

執政より

陛下に哀悼の御親電

二十八日午前八時四十分溥執政より 天皇陛下に武藤元帥薨去哀悼の親電を發せられた

滿洲國代表

遺骸を大連まで送る

告別式後靈柩に政府代表さして謝外交部總長、執政代理さして許大禮官、鄭國務總理秘書官が大連埠頭まで見送るこさとなつてゐる

大連競馬

弔意を表し延期

【大連支局特電】大連競馬倶樂部は故武藤長官の告別式に對し謹んで哀悼の意を表する爲に各方面より非常な期待を持つて迎へられつつあつた二十九日開催の競馬を三十日より三日八月は五、六、七の六日間開催に變更した

明年度豫算總額は 廿三億圓程度

大藏省各省に要求額提出督促

【東京二十八日發國通】明年度豫算各省要求書が出揃ふのは八月中旬さなるだらうが、大藏省さしては説明聽取査定折衝に聞取るので提出方を督促中だが、査定に關する根本方針は腹案出來、藤井主計局長は二十七日葉山の別莊に高橋藏相を訪問し説明旁々意見を求めた、豫算編成は陸海軍豫算であり、國策上の最高政策は高橋藏相さ荒木陸相並びに大角海相の政治解決に委ねるさし、主計局さしては大體本年度の二十三億程度に局限し十億圓を越えんさする新規要求を極力削減を意圖してゐる、査定方針左の如し

一、豫算總額は本年度の限界を越えず
一、明年度公債總額は本年度の九億五千萬圓を超過せぬやう豫め方針を樹てる
一、滿人缺陷補填策さしての增税又は官業擴張は産業の正常な狀態にあらざる今日時期尚早故公債によるより外途がない
一、滿洲事變費は滿洲の治安維持上特に考慮する必要ある故充分研究する
一、陸軍の兵器改善費は容認す
一、海軍第二次補充計畫は本年度豫算で保留されてゐた經費であるから、國防計畫を考慮に入れて可成の程度に容認する外ないであらう
一、時局匡救費は東海消、近畿、中國筋の分を若干減額出來る見込故昨年度の一億六千萬圓程度にする
一、各議費の增加は已むを得ないが爲替差損金は本年度より減少の見込
一、一般の新規要求、既定經費の減額により辨するやう出來る丈削減する

弔問者の爲

臨時列車を運轉

逝去の報傳はるや全滿震駭、弔問者續々新京に集りつつあるが、滿鐵では明二十九日告別式終了後、弔問者歸京の便宜を圖り臨時列車を仕立てるこさとなつた、右臨時列車は一、二等寢臺車三輛、一、三等合同車及び食堂その他の編成で二十九日午後七時三十五分新京發大連へ向ふが一般旅客も取扱ふさ

多倫方面戰雲急

馮の態度不遜

【北平二十七日發國通】馮玉祥は日本軍に多倫撤退を通告しながら部下軍隊は戰備を擴充しつつあるので承德の西部隊は目下〇〇に集中〇〇に行動を開始、國境方面の戰雲切迫してゐる

交通取締

違反者三名

廿八日新京署保安係の嚴重なる交通取締網にかかつた違反者三名

▲室町公學校前の工事請負人山地清氏は既に工事終了して道路許可期限も十五日をもつて完了したに拘らず材土砂を放置してゐた
▲入船町片桐某無許可道路使用の爲
▲富士町朝日タクシー運轉手松本宗義(二七)は無免許の爲さ何れも廿八日保安係で御目玉を頂戴した

天氣と氣温

けふの天氣北寄の風曇り驟雨後晴二十八日の氣温最高二十二度七最低十七度七

人事往來

▲米岡規雄氏(旅順市長)二十八日午後三時三十五分來京
▲實性確性氏(大連新聞社長)同上
▲染谷保藏氏(本社々長盛京時報社長)同上
▲袁金凱氏(滿洲國參議)同上
▲森田路政司長(交通部)二十八日午後三時二十五分來京
▲李紹庚氏(北滿鐵理事)同上

第二十三回決算公告

(昭和八、六月三十現在)

貸借對照表 (金勘定)

借方	金額
拂込未濟資本金	七五〇、〇〇〇・〇〇
營業保證金	一五〇、〇〇〇・〇〇
土地建物	三三、七七九・六八
什器	四、七八・六六
社員身元保證金代用證券	一五〇・〇〇
貸附金	二六、五七〇・四一
未收入利息	二、五〇三・三一
假拂金	三、四四一・八〇
定期預金	二六、〇〇〇・〇〇
通知預金	一〇、〇〇〇・〇〇
當座預金	五、三八八・〇三
賣買未決算勘定立替金	一九五四・七五
前期繰越損金	一四、九六一・一〇
當期損失金	五、六六七・〇一
現金	一三一・五三
合計	一、三三九、〇八〇・七七

貸方	金額
資本金	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇
法定積立金	三七、七〇〇・〇〇
命令積立金	七四、八五〇・〇〇
特別積立金	六一、三九〇・八八
取引保證金	三三〇、〇〇〇・〇〇
社員身元保證金	一、五四二・二〇
借入金	二九、九九九・九五
未拂配當金	三六六・六四
合計	一、三三九、〇八〇・七七

(銀勘定)

借方	金額
當座預金	一〇〇・〇〇
合計	一〇〇・〇〇

貸方	金額
本證據金	一〇〇・〇〇
合計	一〇〇・〇〇

昭和八年七月
新京取引所信託株式會社

追而示原專務辭任につき補缺選擧の結果荒木章富選就任せり

遺骸はいよく明朝新京驛を出發
一先づ靈柩車内に安置し 八時二十分發引

武藤軍司令官の遺骸は三十日午前八時二十分發の臨時列車で新京出發の豫定である當日は午前七時卅分軍司令部正門發同五十分頃靈柩車内に奉置新京驛に向ふ奉送者は日本側並滿洲國側の高等官薦任官以上の官吏及之に準ずるものおよび各種團体代表者は午前七時五十分以降驛構内に入場其他の者は沿道に於て奉送するなほ列車發車前は讀經及燒香を行ふ等である

物言はぬ將軍

〔東京廿八日發國通〕武藤元帥の逸話として物言はぬ將軍の名があるがこれは三時間も對座しながら一言も云はぬことがあつた、何故話さぬかと言つた所「何も云ふことが無いからだ」と云はれた、喜怒哀樂を表はさぬことも有名で志波副官も喜怒哀樂を表はした大將を見たことがないさうだ 陸軍に武藤宗といふのがあるが閥では無く、大將を慕ふ精神的結合で大將は別にそれ等の人々に特に目をかけることも無かつた

告別式參列の順路注意

故武藤元帥の告別式は二十九日午後四時より軍司令部中庭にていと莊嚴裡に行はれることゝなつてゐるが、元帥の偉大なる遺德を偲ぶ日滿官民多數は擧つて告別式に參列し、滿洲における空前絶後の盛大さを豫想されてゐる從て當日の式場一帶は未曾有の混雜を呈するものと見られ、關係各機關でこれが緩和を研究中であつたところ漸く左記の如き決定を見混雜の防止警備に徹底を期することゝなつた

一、招待券所持者は西廣場より蓬萊町通りを軍司令部に向ひ、西三條通りを左に折れ軍司令部正門より式場に入ること、自動車置場は商業學校前、復路も又西廣場を迂廻して行くこと

二、一般參列者は西廣場より蓬萊町通りを軍司令部に向ひ北門より式場に入ること自動車置場は蓬萊町裏通りである復路は往路と同樣、西廣場に一度出て各自歸宅すること、

なほ當局は執政の自動車を除いて正門内に入る事を禁ぜられて居り、參列者は往復路とも西廣場を迂廻することゝなつてゐる

菱刈新軍司令官

(臼井兼次氏謹寫特に本社へ贈呈せられしもの)

皇后陛下
不遇の佳人『錦織よし子女史』を御用係に御起用

〔東京發國通〕皇后陛下には今回不遇の佳人に破格の御仁慈を垂れさせ給ひ、皇后職御用係に御起用あらせられた 光榮に感泣する女性は東北帝大卒業後、中山侯令弟安親氏に嫁し、夫の放埒に離婚した錦織よし子女史である

告別式の次第
けふ午後四時から

故武藤大將の告別式はいよく今二十九日午後四時から軍司令部中庭で佛式で莊嚴に執行されることになつたが、當日は在滿各機關代表も擧げて參列し極めて盛儀を豫想され式は約一時間にして終る見込みであん、次第は左の通り

一、靈柩安置(午後三時半)
一、參會者整列を終る(午後四時迄)
一、喪主及委員着席
一、導師衆僧着席(記念撮影)
一、念佛
一、弔詞朗讀
　軍代表(松木中將)
　大使館代表
　關東廳代表
　執政
　滿洲國代表
　(右以外の弔詞は委員に於て受付け一括して委員に於て捧呈)(米澤書記官)
一、弔電朗讀(齋藤大佐)
一、勤行
　喪主燒香
　軍代表(松木中將)燒香日本軍隊及關東軍職員敬禮
　大使館代表燒香、大使館職員敬禮
　關東廳代表燒香 關東廳職員敬禮
　執政代理燒香
　委員長燒香
　親近者(大野中將荒川喜佐一)燒香
　海軍部代表燒香
　滿洲國代表
　滿洲國軍隊代表燒香 滿洲國軍隊敬禮
　諸學校代表燒香 學生生徒敬禮
　民間諸團体代表燒香 民間團体敬禮
一、委員長挨拶
一、來賓其他燒香
一、一般燒香
一、靈柩ヲ軍司令官室ニ移ス

軍關係の整列順序其他

告別式當日式場ニ於ケル各部隊及在新京關東軍將校以下職員ノ整列順序並隊形左ノ如シ

一、在新京關東軍將校以下職員參列者
　前方ヨリ高等官、判任官、雇員及傭人ノ順序ニ整列ス
二、參列軍隊
　前方ヨリ
　新京警備隊
　獨立守備歩兵大隊ノ一中隊
　歩兵第五十聯隊第三大隊
　電信第三大隊
　飛行第十二大隊
　憲兵隊
　衛戍病院
三、隊形
四、後方主任會議の爲在京しある將校は各其所屬部隊を代表し在新京關東軍將校以下職員の位置に整列するものとす
五、各部隊は午後三時半迄に整列を終るものとす
六、服裝
　一、各部隊は儀式に於ける軍裝
　二、單獨者は隊伍に列せさる軍裝
　三、略綬佩用
　四、文官は單獨者に準し其他の者に在りては不敬に亘らさる服裝
七、軍隊敬禮の要領左の如し
　一、軍代表(松木中將)燒香せらる時「捧ケ銃」若くは注目の號令を下し喇叭を吹奏せしむ
　二、各部隊は先頭に位置する新京警備隊指揮官の號令に準し號令を下す

飛行隊來往

二十八日午後三時三十五分着列車で關東軍飛行第十二〇隊將校以下〇〇〇〇名着京

二十八日午後六時四十分關東軍飛行第十一〇隊將校以下〇〇〇〇名來京同八時四十分發列車でハルピンへ

二十九日午後六時四十分關東軍飛行第十一〇隊[illegible]校以下〇〇〇名來京同八時四十分發ハルピンへ

八月一日午後六時四十分關東軍飛行第十一〇隊將校以下〇〇〇名來京同八時四十分發ハルピンへ

武藤元帥の病症經過
關東軍軍醫部發表

病名 膽嚢炎兼續發性腹膜炎

武藤元帥は七月十日以降奉天、旅順、海城等駐屯部隊を巡視する然に同月二十日海城部隊巡視の際は午後の炎天下に停車場より乘馬にて沿道堵列の部隊を閲し聯隊に到着し數十分に亘る營内巡視の後充分休憩の暇なく湯崗子分院巡視の爲出發さる

二十一日夕刻歸京翌二十二日未明輕き胃腸障害あり体温卅七度二分、脈搏八十至、排便後平温、平脈となる、廿三日黄疸現はれ同日午後膽嚢部に疼痛出で中等度の發熱ありしもリンゲル氏液等の處置により間も無く下熱し廿四日及廿五日午前は無熱となり稍輕快に向はんとせしに廿五日午後再び輕き膽嚢部疼痛を伴ひ体温三十九度、脈搏百二十至を算す、百方手を盡せしも廿六日午前三時より症狀增進す、午後四時体温三十八度五分、脈搏百三十八至結代なきも稍不整緊張微弱なりリンゲル氏液、食鹽水其他強心劑の注射、輸血等に依り心力維持に努めたるも輕快の兆なく鼓腸加はる午後九時一回の嘔吐あり体温三十八度、脈搏百三十至結代なきも益々不整緊張微弱となり愈々憂慮すべき狀態となれり

廿七日午前零時体温三十七度四分、脈搏百三十至、午前三時体温三十八度、脈搏百五十至微弱呼吸三十四意識明瞭なるも衰弱漸次加はる

午前六時体温三十七度に下降し脈搏百五十至を算し緊張益々微弱となり百方手を盡せるも心力は愈々減弱し呼吸淺表となり廿七日午前七時四十五分危篤に陷り翌廿八日午前六時四十七分終に薨去せらる

要之膽血症の爲急激なる經過をとられしものなり

死を悼む人々

滿鐵正副總裁 元帥の死を悼む

武藤軍司令官病篤しの報に接するや急遽二十八日午前八時新京着列車で林滿鐵總裁八田副總裁及竹中、山崎、伍堂、村上の各理事は相携へて來京したが、林滿鐵總裁並に八田副總裁をヤマトホテルに訃報を齎らして訪へば憂色を面に漂へながら語る

林總裁

全く驚愕の外はありません、つい先日大連を出發する時はあんなに元氣で居られたのに武藤司令官の態度、人格から押して閣下自身が本當の意味の日滿親善である樣に思はれます、滿鐵としても非常な打撃で滿鐵のよき理解者であり指導者である閣下を失つた事は一大痛恨事でよるばかりでなく、大にしては日本國家の爲、滿洲國の爲誠に惜んでも余りある次第で謹んで哀悼の意を表して居ります

八田副總裁

實に意外といふ外はありません、十三日旅順官邸へお招きに預り、いろくお話を伺ひましたがその節は非常に大元氣でした、それから二週間位でこの世を去られたとはちよつと信じられません、滿鐵を今迄種々御指導御鞭撻下された滿鐵の今日あるは閣下の御盡力による處が大きいのです、又今後とも御高配を仰ぐ場合が多いことと思はれますのに返すぐも殘念です、又國家の爲非常に哀しむべき事で、謹んで追悼の意を表してゐる次第です

橋本憲兵隊司令官 沈痛な面持ちで語る

武藤元帥薨去の報に橋本憲兵隊司令官は沈痛の色深く左の如く語る

故武藤元帥閣下は文字通りの大將軍であつた將軍は少年時代就學の

『便宜』 を得られなかつた關係上餘程苦學をされ、一日二里の道を往復して夜學に通はれたこともあつた相だが、一度び將校生徒の試驗に合格されて以來陸軍大學校を卒業さるゝまで至るところ最優秀の成績を占められたのみならず元帥は既に陸軍大學々生中即ち中尉時代から同僚より未來の軍司令官と稱せられた程至誠識見拔群であつたものと見える

自分は參謀本部大尉部員時代から前後二十年程御教示に與つたのだが將軍は課長として部長として將又次長として常に沈毅寡默々たる中に悼く人を抱擁するると共に自ら大局を把握して主動の位置に立つの明を備へて居られた、昨夏關東軍司令官兼全權大使として着任せられて以來日滿議定書の

『調印』 を始めとし東邊道、ホロンバイル、熱河等の各作戰に眞に大將軍としての資質を發揮せられ異常なる成功を收められたるは內外の齊しく認めてゐるところであるが、此の間に元帥が直接間接心身を勞されたことは想像の外であつて我慢強い閣下はいつも疲勞の色を見せられなかつた、然しこの永い御心勞は遂に今次御重病の遠因をなしておつたものと拜察する、今回の御病氣に於いても醫者が御苦痛大なるべしと判斷してゐる時に拘らず閣下は一回も苦痛を訴へられたことはない終りに本日御臨終の前に副官が閣下に兩陛下より葡萄酒を賜つた旨を申上げると閣下は

『默禮』 されると共に既に發言困難に陷られてあつた爲に紙と鉛筆を命ぜられて難澁を冒して天皇皇后兩陛下に對する感激と御禮の意味並びに滿洲國の發展に關して書かれたことが如何に眼目の直前まで皇室と國家の念に滿ちくておられたかが伺ひ得るのである 今は大將亦武藤閣下空しく然しながら我等は此の際徒らに失意することなく、これより大いに閣下の遺志を繼いで滿洲國創業の完成を期さねばならぬと信ずる

『元帥の永駐を』 心から願つて居たのに
張實業部總長嘆息

武藤元帥病篤しとの急報に接し湯崗子に病氣療養中だつた實業部總長張燕卿氏は急遽歸京したが氏は往訪の記者に對し「遂に駄目でしたか!何といふ悲しいことだ!」と憂ひに沈んだ顔を一層くもらせ乍ら悲痛な語調で語る

私は咽喉を患つて湯崗子に靜養に行つて居たのですが二十六日夜半「武藤元帥病篤し」との電報を受け驚いて歸京した次第ですが駄目でしたか、嗚呼巨星墜つ!何といふ悲しい事でせう、元帥を慈父の樣に親しんで居られた執政の御嘆きが眼にうつる樣です、日滿關係の圓滿完全を期するには、關東軍司令官の恒久性を絕對必要とする、この意味から我等は人格識見共に高大比類なき武藤元帥が永久に在任されん事を翼つて居たのであります、元帥が來滿されてから一年其間日滿兩國關係百年の基礎たり滿洲國承認、日滿議定書調印等日滿兩國は光明に輝きこれから愈々力強い歩みを踏み出し得ると喜んで居た折も折、天無情にもこの偉人を奪ひ、大きな暗影を投げたい、襲に本庄將軍の轉任あり今度こそは元帥の永久在任を見るものと確信して居たのに薨去に遭ふ、滿洲國に對する天の試練にしても餘りに大き過ぎます 天壽と云つてもこれ又はどうしても諦められません 武藤元帥は來滿僅かに一年でしたが其間偉大な人格識見で日本側內部の一糸亂れぬ統制を執られると同時に誠心誠意滿洲國側に接せられ日滿關係を今日の如き理想的親善關係に導かれたが殊に執政に對しては毎週一回定期に會見され常に忌憚なき意見の交換を行はれました 執政は元帥の人格識見に多大の尊敬を拂はれ御兩人の關係は尋常以上のものがありましたから執政の御嘆きもさこそと拜察出來ます、私は元帥御着任の際奉天まで出迎へましたのを初めとしまして元帥の第一回執政訪問の際は臨時大禮官の資格で執政の名代として奉天、新京間の往復御伴を申し上げ、會見の際は通譯の光榮に浴しましたし滿洲國承認日滿議定書調印の際も何れも大禮官として元帥の御伴を致しました、其後も屢々御兩人の水入らずの會見に通譯を命ぜられたりしまして元帥とは淺からぬ因緣を有つて居ますだけに大將の訃を聞いて感慨無量のものがあります、巨星墜つ!日滿兩國のためこれ以上悲しい事はありますまい

慈父を失ふ
林警務局長談

武藤關東長官の逝去に付哀惜の意を表すべく急遽來京した關東廳林警務局長を國都ホテルに訪へば語る

あまりの急變にたゞ驚愕の外はない、長官は日頃非常に氣眞面目で人の和をモットーとして終始一貫し獨自の人格を非常に尊重する人であつた。十三日關東廳で最後の訓辭の時にも良くそれが現はれてゐた、又大變に溫厚な人で人には何時の場合でも溫顏を以つて接し自分等は慈父の如く敬慕してゐたのに天命とはいへ悲しみても餘りある事だ

たゞく感泣
日下內務局長談

大將危篤の報に接し二十七日旅順から急遽來京した關東廳日下內務局長は左の如く語つた

實に殘念なことです、閣下が三位一体として昨年大使として着任以來關東廳の事務は思ふごとくに進み且つ廳員は上下共に安心して事務を遂行しておりました薨去を聞き廳員は皆落膽してゐます、閣下はいつも溫和な方で我等に接する時にもやはらかい感じをあたへました、教育、神社には氣をつけられたが大滿洲將來の經濟には最も重きをおかれ細密な調査研究をされた最後(死の直前)に書かれた感想記にも充分に推察されることがあります、見るもの聞くものをして感泣せしめた

臥虎屯西方の蒙古兵兵變

〔四平街發〕二十七日午後某所入電によると四洮線臥虎屯西南十支里なる二龍河口駐屯の興安分省管下の蒙古兵兵變を起し十名と二十名の二隊に分れて逃走其の内、二十名の一隊は同地北方約七支里の靠山屯自衛團十名の武裝を解除したが右自衛團十名行衛不明となつた兵變原因は不明である

吉凶禍福

△新京中央通十八警察官舍第五號藤田權藏氏三女方子さん十五日午後十時出生

△本籍東京市中野區滿場七滿洲國官吏部富佃氏長男章さん二日午後九時出生

經濟欄

海外經濟

▲銀塊及爲替

品目	値
倫敦銀塊	[illegible]
同遠限	[illegible]
紐育銀塊	[illegible]
孟買銀塊	[illegible]
米英爲替	[illegible]
米日爲替	[illegible]
米支爲替	[illegible]
スチール株	[illegible]
アナゴンダ株	[illegible]

▲棉花

限月	米棉
現物	[illegible]
九月限	[illegible]
十一月限	[illegible]
一月限	[illegible]
三月限	[illegible]
五月限	[illegible]
七月限	[illegible]

▲上海標金

項目	値
昨止	[illegible]
高値	[illegible]
安値	[illegible]
本寄	[illegible]
步値	[illegible]

▲大連金鈔票

項目	値	値
現物	[illegible]	[illegible]
寄付	[illegible]	[illegible]
步値	[illegible]	[illegible]

▲大阪三品

限月	値	値
當限	[illegible]	[illegible]
八月限	[illegible]	[illegible]
九月限	[illegible]	[illegible]
十月限	[illegible]	[illegible]
十一月限	[illegible]	[illegible]
十二月限	[illegible]	[illegible]
引	[illegible]	[illegible]
止	[illegible]	[illegible]

▲大阪期米

限月	値	値
當限	[illegible]	[illegible]
中限	[illegible]	[illegible]
先限	[illegible]	[illegible]

▲大阪棉花

限月	値	値
當限	[illegible]	[illegible]
先限	[illegible]	[illegible]

各地市場

▲大阪株式

銘柄	値	値
大株新	[illegible]	[illegible]
大紡新	[illegible]	[illegible]
同鐘新	[illegible]	[illegible]

▲同短期

銘柄	値	値
大新	[illegible]	[illegible]
鐘新	[illegible]	[illegible]
東新	[illegible]	[illegible]

▲大連株式

銘柄	値	値
先限	[illegible]	[illegible]
五品	[illegible]	[illegible]

新京市況

品目	値
大豆 現物	[illegible]
出來高	[illegible]
高粱 出來高	[illegible]
▲錢鈔(現物)	
鈔票對金票	[illegible]
現大洋對金票	[illegible]
國幣對金票	[illegible]
大洋對鈔票	[illegible]

鐵交涉停頓に ソ聯側狼狽の極

我外務省に泣き入る

【東京廿八日發國通】北鐵讓渡交涉は去る七月十四日第五次會商を開會以來その後全く滿ソ兩國對立の儘十日間を過して居るため斯る停屯情勢に交涉の進展策に苦心し駐日ソ使ユレネフ氏は二十七日午後三時半外務省に内田外相を訪ね午後六時に至る迄長時間に亘り北鐵交涉の打開策に就き熱心なる要望を述ぶる處あつた、ソ聯側としては北鐵交涉

『焦慮』し出したソ聯側は種々が、ソ聯側の所有權主張と二億五千萬金ルーブルと云ふ法外の云ひ値を切出したため交涉が停屯して居る間に現地では滿洲國當局が着々奉蘇協定の趣旨實現に依る北鐵接收方針を實行しつつあり右の情勢により急遽態度は軟化し妥協條件作成に奔走しだしたものと如くで廿七日の會見でもユレニエフ氏はソ聯の窮狀を披瀝し内田外相の斡旋方を要望したが、外相は飽くな既定方針通り我國としては成るべく手を出さず滿蘇兩當事國の直接交涉を行はしめる方針なる旨を說き滿洲國側との折衝方を勸說した、尙は本日の會見で内田外相はペトロハパロフスクにおける第二琴平丸の裁判事件は蘇聯が日本の正當なる抗議に耳を籍さず一方的に取扱へるものとして其

『不當』を難詰、蘇側の反省を促したが、蘇國使は一應本國政府へ傳達すべき旨約した

篠原市之助の審理

五、一五公判

【東京廿七日發國通】五、一五事件陸軍公判は廿七日午前八時開廷、篠原市之助の審理に入る

島田法務官「革新運動の原因如何」

篠原「陸士在校中十官學校は國体擁護の最後の地たりとの訓戒を受け膽に銘じた、國內腐敗の醜状は政黨政治の生んだものだ軍部大臣に豫後備を充てるを得るのと期待したのが誤りだ」とロンドン條約の財部氏を非難し

犬養氏は清廉高潔の民衆政治家だつたが、政黨の代辯者たるの地位に立つたので支配階級の犧牲となつたが我等は衷心より冥福を祈ると述べ九時廿八分休憩後、十時五分再開

島田法務官「直接行動の動機如何」

篠原「究極の目的は皇道の宣布、直接的には國民に對する警鐘の亂打である」

犬養氏暗殺の模樣を聞きとり廷内肅然十一時再び休憩、零時十五分再開中島忠秋の審理に入り直接行動をとらざるを得ぬ理由を說明し一時卅七分閉廷した

犬養氏暗殺の秘話

【東京二十七日發國通】五、一五事件海軍公判は午前九時開廷、古賀の陳述に入る

軟弱外交は大亞細亞主義確立の爲めの日支親善を阻害するもので支那の改造に進む前の先決問題として、日本の政黨改造を必要とする

總理官邸襲擊には、三上中尉は爆彈を投げつけ騷がすだけで、總理暗殺の必要なしと主張し、內部對立があつたが結局暗殺した

と秘話を語り、二時閉廷した

經濟會議二十七日 無期休會となる

【ロンドン二十七日發國通】經濟會議は午前午後に亘り本會議開催、各國代表の演說に次ぎマクドナルド議長は會議休會中幹部會に附與すべき權限に關する決議案並に經濟通貨兩委員會の報告書を含む四十三頁に亘る尨大な報告案を提議し討論を用ひずして全會一致之を可決四時三十八分を以て閉會期休會に入つた

北支在留邦人

控訴裁判大連廻付を要望

【天津二十七日發國通】北支一帶在留邦人の控訴裁判は從來長崎に運ばれてゐたが、今回から大連關東廳高等法院に廻附すべく當地小泉司法領事の下に於て考究されつゝあつたが大連辯護士會に於ても該方法に賛成近く會の決議を送付し來ることになつて居り、當地辯護士側も賛成なので近く小泉領事はこれ等の請願決議をまとめて本省に意見具申

新京對拓大 蹴球戰中止

本日午後四時より西公園に於て擧行の筈であつた拓大對新京選抜軍の蹴球戰は中止となつた

をなすこととなつた

海の外から

□黄草の種子中に營養素 米國コネクティカット農事試驗所のL、B、メンデル博士及びH、B、ヴヰツクリー博士は黄草の種子中に營養素があることを發見した、即ちニコチンは半熟の黄草種子中にのみあつて成熟せる黄草の種子中にはなく、鼠に實驗した所二週間程の間に丸々と肥大したと

□電氣仕掛の空中滑走器 米國コロラド河對岸の炭坑地では空中滑走器を應用して渡船代りの、二十人乘り滑走台を拵へた、電氣仕掛になつてゐて兩岸にゐる信號旗手の合圖で往復するのだ

□看過出來ぬ氷の効目 清淨無垢な氷は清水よりも保健衛生的だと云ふので目下米國では各家庭で奬勵中

□自動車事故の損失三十億 米國當局が一ケ年の自動車事故に依る損失を調査した所負傷者百萬人中死亡者三萬三千五百人損失額三十億ドル(人命價値をも含む)であつたと

□家の樣な航空機 米國に於ける最大定期航空機は、操縱者二人と十八人の乘客とを乘せ、機体內には展望室、喫煙室、食堂、洗面所、ラヂオ室、郵便物室等の設備があり、高さ九十一呎の大型ものである

□一ケ月五弗の大學生 米國ユター州立農科大學の一學生は一ケ月五弗の費用で通學してゐるので大評判、その住家は自製の幌馬車で食物は家庭から贈られる野菜と果物だけとは成る程全米大學中の最低學費である

□銅製のレターペーパー 米國の實業界では千分の一吋の銅板をレターペーパーにして手紙を書くのが流行してゐる、保存上非常に良いとの評判である

ラジオ

二十九日(土) 民族協和週間放送番組

奉天後四、〇〇レコード相場 商業通信社

同 後四、三〇演藝

新京後五、〇〇講演 滿洲國的治安 軍政部總長張景惠

同 後五、三〇ニュース(滿)

東京後六、〇〇ニュース(入) 東京中央放送局編輯

新京後六、二〇語學講座(滿洲語) 講師 宮盛逸

六、四〇后(日本語) 植松金枝

同 後七、〇〇ニュース(英)

同 後七、一〇ニュース(露)

同 後七、二〇ニュース(鮮)

同 後七、三〇ニュース(日) 氣象豫報、放送局編輯及プログラム豫告

同 後八、〇〇演藝

東京後八、三〇時報

同 後八、三一ニュース(入) 東京中央放送局編輯

鮮魚小賣相場

品名	値	品名	値
活鯛	一〇五	チヌ鯛	五〇
小鯛	五六	カツオ	四五
ニベ	二二	ブリ	二三
ヒラス	四〇	サハラ	三二
スズキ	二三	サバ	二六
アジ	三〇	カレイ	二三
ヒラメ	三二	コノシロ	三二
小フジ	三〇	マナカツ	三二
タチ	一八	グチ	六〇
メバル	二一	カナガシラ	一七
フカ	二五	イカ	一〇〇
水イカ	一〇〇	イセエビ	一〇〇
車エビ	一三〇	コエビ	二一
カニ	一七	ハモ	二一
アナゴ	一六	アワビ	九二
シイラ	二〇	舌	二三
ヤズ	二六	キサミ	三五
ウナギ	一二〇		

團体

▲廣島高等師範生二十二名二十八日午前八時四十分ハルビンへ

▲大阪天王寺商業生三十名二十八日午後零時四十分奉天へ

▲台灣火連港商工團十三名二十八日午前八時四十分ハルビンへ

▲鳳原驛王樂園二十名二十八日午前九時五十分南行

▲台北商商生十一名二十八日午前八時四十分ハルビンへ

▲東京本鄕區教育團十三名二十八日午後三時三十五分奉京

▲京都府立第二商業學生四十名二十八日午後七時五十分來京同十時安東へ

▲京城菓子商團二十名二十八日午後三時二十五分來京同四時三十分大連へ

▲台北一中生六十五名二十八日午後一時四十分來京

連載漫畫 二人上戸

ヤク人『キサマノナマヘハナント モオス

ゲラ助『ウフ、、、アハ、、、

ヤク人『オヤタチヘ、アルノカ

ゲラ助『アッハ、、、ワタクシハ ワライノゲラ助トマオシマシテ ミルモノ キクモノミナオカシイノデス アッハ、、

ヤク人『ワライノゲラスケトナ フフン オモシロイナマヘモアル モノヂヤヨ

ゲラ助『アヘ、、、ウフフ、、

ゲラ助『オヤハ タッタフタリ ソレモチチハヲトコ 母ハヲンナデゴザイマス

戀と黒船往來

禁轉載上映及上演

（作）寺島柾史　（畫）布施長春

第百十六回

溺れぬ人（二）

墨を流したやうな夜ふけの海を長さ一間半位の磯舟が、南をさして流れてゆく。

宵風が、夜ふけになつてから變り、いさゝか波も出てゐる。その沖波にもてあそばされ、よろけながら陸岸を右手にみて南へ進むいそ舟には三人の異様な人間が乗つてゐる。

艫に立つて巧に櫓を操るのは、紺衣を纏ふた女人。胴の間にあつて無言のまゝ行手の闇をみてゐる一人は、尻切れ袢天に頬かむり、用子らしい男。他の一人は酸模や野麻を身につけた老人……三様の扮装で、それが山の老人カチウドと江戸の白軒と、ニゴリナイの濱千島フラメであることが讀める。

彼等三人は、山の館の丸小屋を見棄てゝ、あれから喧嘩泊へ首尾よく出で、和人のいそ舟を盗み、遠く余市郡湯ノ川までの船路を急いでゐるのだ。何しろ人眼に觸れてはならぬいまはお尋ね者の三人の旅であるから、夜のあけぬうちに小樽場所ことに高島濱を避けて通らねばならない。一心不亂に船をこぐフラメはもとより、胴の間にあるふたりも八方に氣を配り、一枚の波、一過の風にもこゝろをゆるさぬのは、當然……。

黒船の渡來このかた、高島領も松前領に劣らぬ數々の事件を生ずるやうになつた。

沖では漁船がたびたび外船に襲はれ、濱々もまた紅毛人に汚されるといふ物騒な世の中になつたので、小樽勤番所でも默つてはをれず、晝はもちろん、夜までも巡らの船をうかべて、近海を警固してゐる。

世を忍ぶ三人を乗せたいそ舟が、この巡ら船の眼を避けるのは並大抵の業ではない。いや、巡らの船でなくとも、たゞの漁船に發見されてもおだやかに濟む譯けがないだらう。漁船は、たゞちに巡らの役人に事の由を密告し、すぐに手配をされるは當然である。

それでも彼等は喧嘩泊を發つて以來、海客の泊、オイガルシ、朝里、熊碓、赤岩、小岩などの沖を無難に過ぎ、勝納、信香あたりから勤番所役人の眼を避けるためいつさう沖へ出て、入船、オロアタ、色内、手宮なども、いつか過ぎて、いよいよタンネシララから、トーコタンを廻つたいまは、いくらか氣もゆるせた。

が、もう大事ない……とおもつたのは、胴の間のふたりだけで、無言のまゝ櫓をあやつるフラメは、それどころではなく、むしろこれからが難關だとおもつた。

高島の辨天島の内ふところに黒船が潜んでゐるからだ。

その黒船と對峙して高島出張番所の船もこのあたりまで出てゐぬともかぎらぬとみるからだ。

だから、フラメは胴の間のふたりが、いくらか氣をゆるして、ほそぼそと語り合つたのをきいて闇の中でそれを叱つた。

『和人しや、こんなところで聲立てゝはいけません』

『なぜだ』

白軒は訊ねた。

『高島の沖ですよ。黒船がゐます』

『おう、さうか』

と、素直にいつた白軒は、そのとき急におのれの境涯をかへりみた。

――おれはその黒船をたづねて蝦夷へ渡つたのではなかつたか。

彼の眼は、怪しく闇の中に光つた。

あこがれの黒船に、野望の瞳を向けようとするのだ。

と、その希望に輝く大きな眼は闇の彼方の黒船をすくひ取らず、行方にあたり意外な怪しい漂流物をみとめた。